

# 応用計量経済分析 TA セッション 練習問題

## 第 1 回：平均・分散・標準偏差

TA：北村友宏\*

2015 年 10 月 6 日

教科書やノートなどを参照しても構いません。また、周りの人と相談しても構いませんが、あまり大きな声は出さないでください。

1. 算術平均を  $\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$  とする。

(a) 次の等式

$$\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n ax_i = a\bar{x}$$

を証明しなさい。

- (b)  $\bar{x} = 0.0021$  のとき、(a) の結果を利用し、 $\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n 1000x_i$  を求めなさい。

2. 算術平均を  $\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$  とする。このとき、

$$\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 = \sum_{i=1}^n x_i^2 - n\bar{x}^2$$

を証明しなさい。

Hint：左辺にある二乗の部分を展開した後、総和記号の性質を利用する。

---

\* Email: [kitamu.tom@gmail.com](mailto:kitamu.tom@gmail.com) URL: <http://tomkitamura.html.xdomain.jp>

## 練習問題解答

1. (a) (証明)

$$\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n ax_i = \frac{1}{n} \cdot a \sum_{i=1}^n x_i = a \cdot \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i = a\bar{x}. \quad (\text{証明終})$$

- 標本の全ての観察値を一定倍すると、その算術平均も一定倍になる。

(b) (a) の結果から、 $\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n 1000x_i = 1000\bar{x} = 1000 \cdot 0.0021 = 2.1$  である。

- 標本の全ての観察値を 1000 倍すると、その算術平均も 1000 倍になる。

2. (証明)

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 &= \sum_{i=1}^n (x_i^2 - 2x_i\bar{x} + \bar{x}^2) \\ &= \sum_{i=1}^n x_i^2 - \sum_{i=1}^n 2x_i\bar{x} + \sum_{i=1}^n \bar{x}^2 \\ &= \sum_{i=1}^n x_i^2 - 2\bar{x} \sum_{i=1}^n x_i + n\bar{x}^2 \end{aligned}$$

ここで、 $\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$  なので、 $n\bar{x} = \sum_{i=1}^n x_i$  である。よって、

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n x_i^2 - 2\bar{x} \sum_{i=1}^n x_i + n\bar{x}^2 &= \sum_{i=1}^n x_i^2 - 2\bar{x} \cdot n\bar{x} + n\bar{x}^2 \\ &= \sum_{i=1}^n x_i^2 - 2n\bar{x}^2 + n\bar{x}^2 \\ &= \sum_{i=1}^n x_i^2 - n\bar{x}^2. \quad (\text{証明終}) \end{aligned}$$